

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0810
施設名	中神保育園
施設所在地	東京都昭島市朝日町5-4-17
法人名	社会福祉法人多摩育児会中神保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物に興味を持ち、生命について考える

<テーマの設定理由>

昨年度の年長児もカブトムシを育て、羽化させていたことから昆虫に興味を持っている。今年度も講師を招いて、年長児対象にカブトムシを育てていく。

子どもの姿として

- ・園庭にいるダンゴムシなど自然に興味がある。
- ・図鑑を使って育て方や生育について調べている。
- ・捕まえた昆虫を虫かごで育てた経験がある。
- ・様々な昆虫と出会いたいという願いがある。

これらを踏まえて、生命について考えられる機会となって欲しい。

2. 活動スケジュール

- ・事前にカブトムシの成長について図鑑や写真などを用いて伝える。
- ・カブトムシの生育に必要なペットボトルなどを集める。
- ・講師を招いてペットボトルでカブトムシハウス作製
- ・カブトムシの幼虫を飼育する。
- ・カブトムシの成長を追う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・2Lのペットボトルの上部を切り取る。
- ・中にカブトムシの幼虫を入れ育てる。
- ・室内にカブトムシハウスを作り、カブトムシを飼う。

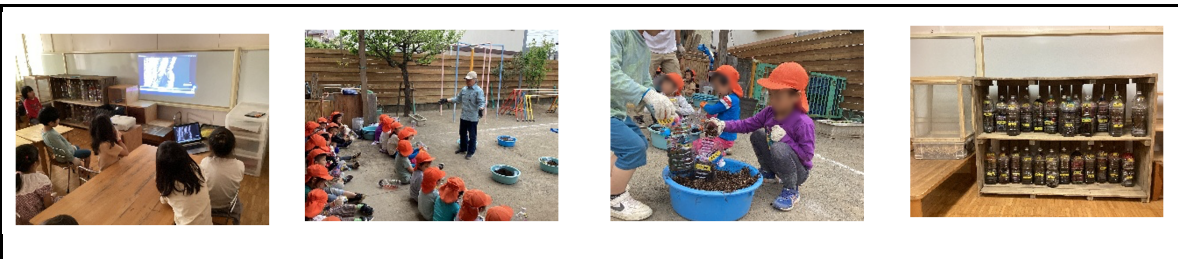
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・カブトムシについて図鑑で見る
- ・講師を招き、カブトムシハウスを作り、必要な土などを入れる。
- ・ペットボトルの側面から見える過程を観察
- ・変化を察知して、期待を共有する
- ・カブトムシにを虫かごにうつし、飼育をする
- ・カブトムシの絵を描く

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・図鑑を見ながらダンゴムシやカブトムシの育て方や生育について調べている。
- ・カブトムシの幼虫が園にやってきて、子どもたちは「どうやっておおきくなるのかな?」「せいちょうにしたい!」と話をしている。
- ・興味のある子が中心となり、カブトムシについての知識が付くと保育者は考える。
- ・講師の先生を招いて、カブトムシハウスを作る。
- ・幼虫の様子を観察し、変化を友だちに伝えている「こっちはまだかな」と言っている。
- ・カブトムシが成虫になるために必要な土などを用意し、住み家を作る。
- ・成虫になったカブトムシを虫かごに移す。カブトムシが住む環境や世話の仕方を掲示したり、図鑑を用意すると、友だちと順番に土を湿らしたり、木や餌を設置していた。
- ・週末を挟むとカブトムシの元気がないことに気付く。
「エサがたりないのではないかな?」「きんようびのかえりにえさをあげよう!」
- ・亡くなったカブトムシについて話し合いをする様子が見られた。
- ・観察をしながら、カブトムシの絵を描く子どもがいたので、じっくりと観察できる環境を用意した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

幼虫から成虫へと変化する過程を長期間見守る中で、子どもたちの生命への興味関心が大きく育まれた。日々の観察では、小さな変化にも気付こうと集中し、体の大きさや色の違い、動き方などを比べながら、「今日は土の中で静かだね」「たくさん食べて大きくなったね」と言葉にして共有する姿が見られた。また、幼虫期から蛹、成虫へと移り変わる様子を目の当たりにすることで、子どもたちは生き物の成長の神秘さに驚き、自然と「どうして?」「なんで?」という探究心が高まっていた。世話の場面では、エサの交換や土の状態の確認などを自分たちで行い、「やさしくしよう」「びっくりさせないように置こう」といった言葉が自発的に出るなど、命を大切にする態度が育っていた。また、子ども同士で役割を相談しながら進めることで、協働性や責任感も自然と養われていた。今回の活動を通して、長い時間をかけて一つの生き物を育てる体験は、観察力だけでなく、情緒面・社会性にも大きく寄与することが改めて実感された。今後も、季節に合わせた生き物とのかかわりを継続し、子どもたちが自然への興味と生命の大切さを深められる活動へとつなげていきたい。